

調査結果の概要

発 育 状 態

1 身長・体重の平均値

令和元年度及び平成30年度の幼稚園、小学校、中学校、高等学校における幼児、児童及び生徒の身長・体重の平均値を年齢別にみると、表1のとおりである。

表1 年齢別、身長・体重の平均値

区 分		身 長 (cm)				体 重 (kg)			
		男		女		男		女	
		R1	H30	R1	H30	R1	H30	R1	H30
幼 稚 園	5歳	110.0	110.3	109.5	108.8	19.0	18.9	18.6	18.5
小 学 校	6歳	116.4	116.4	115.9	115.3	21.4	21.3	21.4	21.1
	7	122.3	122.1	121.3	120.9	24.0	23.9	23.5	23.5
	8	127.8	127.6	127.3	126.8	27.4	27.2	26.8	26.1
	9	133.3	133.5	133.1	133.5	30.7	30.3	30.2	30.6
	10	138.6	137.9	140.2	139.9	34.1	33.7	34.5	34.4
中 学 校	11	145.2	144.9	146.6	146.4	39.5	38.3	39.9	38.8
	12歳	152.2	152.1	151.5	151.3	45.0	43.8	44.6	44.1
	13	159.2	159.3	154.4	154.5	49.5	48.5	47.8	47.9
高 等 学 校	14	164.9	164.9	155.8	155.9	53.7	53.4	50.0	50.2
	15歳	167.5	168.1	156.4	156.6	58.1	59.7	51.9	51.7
	16	169.6	169.3	157.1	157.7	61.4	60.4	54.1	52.9
	17	170.2	170.1	157.1	157.5	62.8	62.3	52.9	53.3

(1) 身長

男子の身長は、5歳で110.0cm、11歳で145.2cm、14歳で164.9cm、17歳で170.2cmとなっており、7歳、8歳、10歳～12歳、16歳、17歳の各年齢で前年度より伸びている。

なお、各年齢間の身長差は11歳と12歳、12歳と13歳の間(7.0cm)が最も大きく、16歳と17歳の間(0.6cm)が最も小さい。

女子の身長は、5歳で109.5cm、11歳で146.6cm、14歳で155.8cm、17歳で157.1cmとなっており、5歳～8歳、10歳～12歳の各年齢で前年度より伸びている。

なお、各年齢間の身長差は9歳と10歳の間(7.1cm)が最も大きく、16歳と17歳の間(0.0cm)が最も小さい。

10歳、11歳で女子の身長は、男子の身長を上回っている。

(2) 体重

男子の体重は、5歳で19.0kg、11歳で39.5kg、14歳で53.7kg、17歳で62.8kgとなっており、15歳以外の各年齢で前年度より増えている。

なお、各年齢間の体重差は11歳と12歳の間(5.5kg)が最も大きく、16歳と17歳の間(1.4kg)が最も小さい。

女子の体重は、5歳で18.6kg、11歳で39.9kg、14歳で50.0kg、17歳で52.9kgとなっており、5歳、6歳、8歳、10歳～12歳、15歳、16歳の各年齢で前年度より増えている。

なお、各年齢間の体重差は10歳と11歳の間(5.4kg)が最も大きく、16歳と17歳の間(-1.2kg)が最も小さい。

10歳、11歳で女子の体重は、男子の体重を上回っている。

2 身長・体重の推移

(1) 身長の推移

身長推移をみると、表2のとおり、男女ともここ数年ほぼ横ばい傾向を示している。

親の世代である約30年前(平成元年度)と比較すると、表2の年齢区分では、男子の身長は、6歳で0.4cm、11歳で1.4cm、14歳で1.0cm高く、17歳で0.4cm低くなっている。

女子の身長は、6歳で0.1cm、11歳で0.5cm高く、14歳で0.4cm、17歳で0.5cm低くなっている。

図1【身長】男女の比較

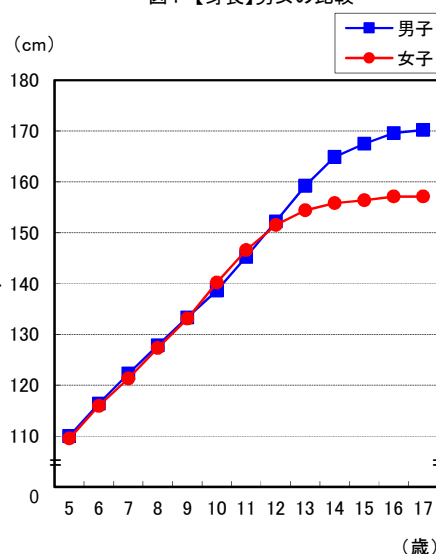


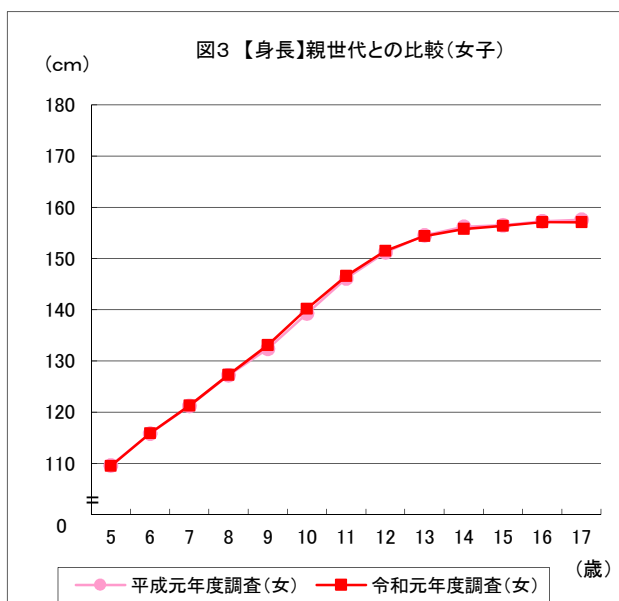
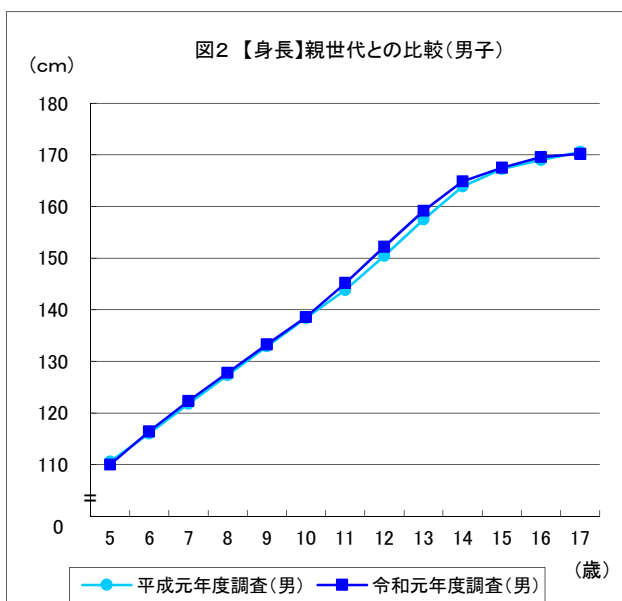
表2の年齢区分で全国と比較すると、令和元年度では、男子の身長は、6歳で0.1cm、14歳で0.5cm、17歳で0.4cm低く、11歳で同値となっている。

女子の身長は、6歳で0.3cm高く、11歳で同値、14歳で0.7cm、17歳で0.8cm低くなっている。

表2 身長の推移

(単位: cm)

区分	佐 賀 県							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
平成元年度	116.0	143.8	163.9	170.6	115.8	146.1	156.2	157.6
平成11	116.4	144.6	165.0	170.0	115.3	147.3	156.0	157.3
21	116.1	144.4	164.5	169.8	115.4	146.8	156.2	157.3
26	116.5	144.9	164.8	170.1	115.6	146.5	156.1	157.5
27	116.5	144.9	165.2	171.0	115.9	146.9	156.2	157.4
28	116.3	144.6	165.2	170.7	115.2	146.8	156.4	157.0
29	116.2	145.3	164.8	171.0	115.6	147.0	156.2	157.5
30	116.4	144.9	164.9	170.1	115.3	146.4	155.9	157.5
令和元	116.4	145.2	164.9	170.2	115.9	146.6	155.8	157.1
区分	全 国							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
平成元年度	116.7	144.3	164.4	170.5	116.0	146.1	156.4	157.8
平成11	116.6	145.3	165.5	170.9	115.8	147.1	156.7	158.1
21	116.7	145.1	165.2	170.8	115.8	146.9	156.7	157.9
26	116.5	145.1	165.1	170.7	115.5	146.8	156.4	157.9
27	116.5	145.2	165.1	170.7	115.5	146.7	156.5	157.9
28	116.5	145.2	165.2	170.7	115.6	146.8	156.5	157.8
29	116.5	145.0	165.3	170.6	115.7	146.7	156.5	157.8
30	116.5	145.2	165.3	170.6	115.6	146.8	156.6	157.8
令和元	116.5	145.2	165.4	170.6	115.6	146.6	156.5	157.9



年間発育量

平成13年度生まれ(令和元年度17歳)の年間発育量をみると、表3のとおり男子では11歳時、女子では8歳時と9歳時に最大の発育量を示しており、最大発育量を示す年齢は、女子の方が男子に比べ3歳早くなっている。

また、この発育量を親の世代(平成元年度17歳)と比較すると、男子では発育量が最大となる時期は親の世代より1歳早く、5歳、9歳、11歳の各歳時で親の世代を上回っている。

女子については、発育量が最大となる時期は親の世代より2歳早く、5歳、7歳~10歳、13歳、15歳の各歳時で親の世代を上回っている。

表3 【身長】平成13年度生まれと昭和46年度生まれの者の年間発育量の比較

(単位: cm)

区分	男子		女子	
	平成13年度生まれ (令和元年度17歳)	昭和46年度生まれ (親の世代の17歳)	平成13年度生まれ (令和元年度17歳)	昭和46年度生まれ (親の世代の17歳)
総発育量	59.6	-	47.8	-
幼稚園				
5歳時	6.2	4.6	6.4	4.9
小学校				
6歳時	5.6	5.8	5.6	5.9
7	5.7	5.7	5.7	5.4
8	5.1	5.3	6.7	6.0
9	5.9	5.5	6.7	6.4
10	5.2	5.7	6.6	6.5
11	8.0	6.1	4.8	5.7
中学校				
12歳時	7.0	7.6	2.7	4.0
13	5.9	6.9	1.9	1.8
14	2.8	3.4	-0.3	0.4
高等学校				
15歳時	1.3	1.9	1.6	1.1
16	0.9	1.9	-0.6	0.1

注) 年間発育量とは、例えば、平成13年度生まれの5歳時の年間発育量は、平成20年度調査6歳の者の身長から平成19年度調査5歳の者の身長を引いたものである。

図4 【身長】平成13年度生まれと昭和46年度生まれの者の年間発育量の比較(男子)

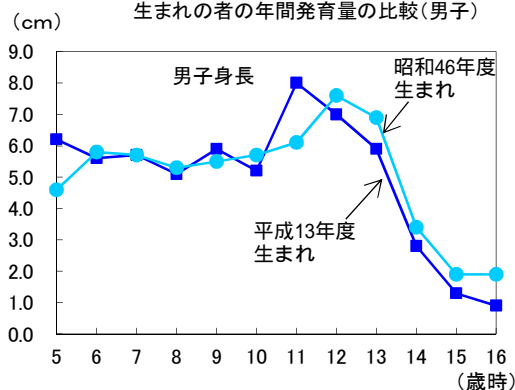
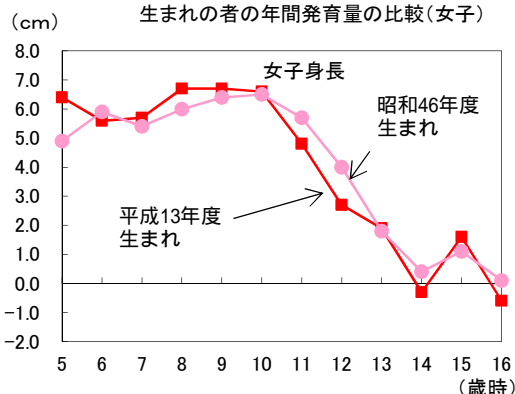


図5 【身長】平成13年度生まれと昭和46年度生まれの者の年間発育量の比較(女子)



(2) 体重の推移

体重の推移をみると、表4のとおり、男女ともここ数年ほぼ横ばい傾向を示している。

親の世代である、約30年前（平成元年度）と比較すると、表4の年齢区分では、男子の体重は、6歳で0.4kg、11歳で2.6kg、14歳と17歳で1.3kg重くなっている。

女子の体重は、6歳で0.6kg、11歳で1.8kg、14歳と17歳で0.3kg重くなっている。

図6【体重】男女の比較

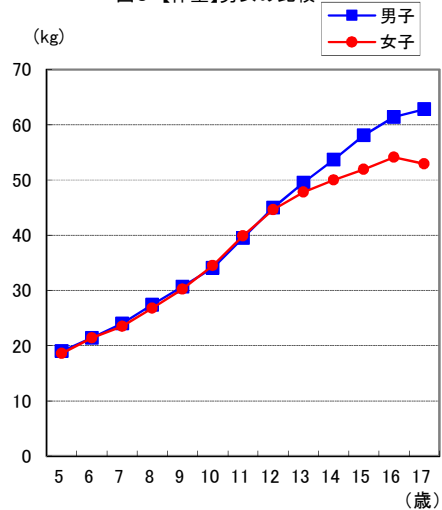


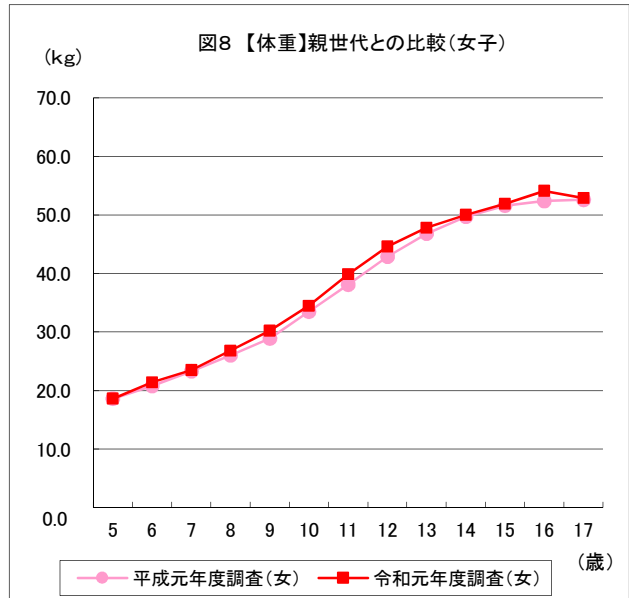
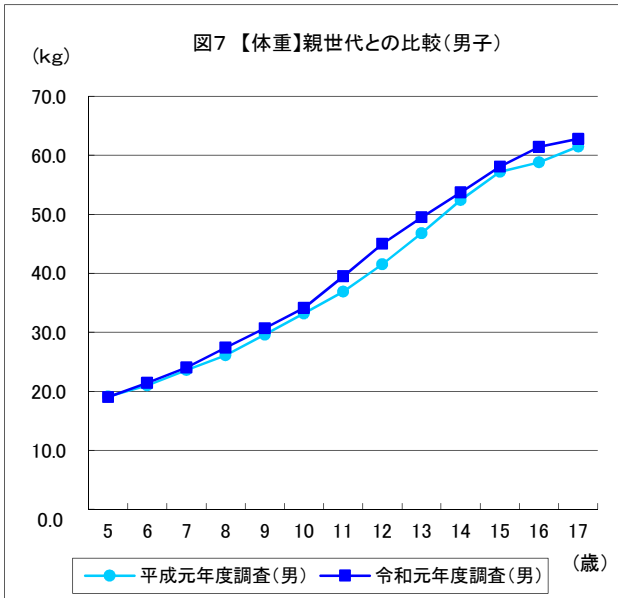
表4の年齢区分で全国と比較すると、令和元年度では、男子の体重は、6歳で同値、11歳で0.8kg、17歳で0.3kg重く、14歳で0.4kg軽くなっている。

女子の体重は、6歳で0.5kg、11歳で0.9kg重く、14歳と17歳で0.1kg軽くなっている。

表4 体重の推移

(単位：kg)

区分	佐賀県							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
平成元年度	21.0	36.9	52.4	61.5	20.8	38.1	49.7	52.6
平成11	21.6	38.6	54.0	61.9	20.9	40.4	50.4	52.7
21	21.2	37.7	54.0	61.5	21.0	39.0	50.6	54.5
26	21.5	38.6	53.9	62.5	21.0	39.2	50.8	52.5
27	21.4	37.8	54.2	63.0	21.2	39.2	50.4	54.3
28	21.3	38.0	54.2	63.1	20.7	39.6	50.1	53.0
29	21.3	38.7	53.9	63.8	21.2	39.9	51.1	53.6
30	21.3	38.3	53.4	62.3	21.1	38.8	50.2	53.3
令和元	21.4	39.5	53.7	62.8	21.4	39.9	50.0	52.9
区分	全国							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
平成元年度	21.5	37.9	54.1	62.0	21.0	38.7	50.0	52.6
平成11	21.7	39.3	55.3	62.4	21.3	40.0	50.7	53.1
21	21.5	38.4	54.3	63.1	21.0	39.0	50.2	52.9
26	21.3	38.4	53.9	62.6	20.8	39.0	50.0	52.9
27	21.3	38.2	53.9	62.5	20.8	38.8	49.9	53.0
28	21.4	38.4	53.9	62.5	20.9	39.0	50.0	52.9
29	21.4	38.2	53.9	62.6	21.0	39.0	50.0	53.0
30	21.4	38.4	54.0	62.4	20.9	39.1	49.9	52.9
令和元	21.4	38.7	54.1	62.5	20.9	39.0	50.1	53.0



年間発育量

平成13年度生まれ(令和元年度17歳)の年間発育量をみると、表5のとおり、男子、女子ともに11歳時に最大の発育量を示している。

また、この発育量を親の世代(平成元年度17歳)と比較すると、男子では発育量が最大となる時期は、親の世代より2歳早く、5歳、7歳、9歳、11歳の各歳時で親の世代を上回っている。

女子については、発育量が最大となる時期は親の世代と同じで、5歳、7歳~9歳、11歳、15歳の各歳時で親の世代を上回っている。

表5 【体重】平成13年度生まれと昭和46年度生まれの者の年間発育量の比較

(単位: kg)

区分	男子		女子	
	平成13年度生まれ (令和元年度17歳)	昭和46年度生まれ (親の世代の17歳)	平成13年度生まれ (令和元年度17歳)	昭和46年度生まれ (親の世代の17歳)
総発育量	43.8	-	34.3	-
幼稚園				
5歳時	2.6	1.1	2.3	1.5
小学校				
6歳時	2.4	2.6	2.3	2.7
7	3.1	2.8	3.4	2.4
8	2.8	2.8	3.4	3.2
9	4.4	3.2	4.6	4.0
10	3.6	3.8	4.3	4.5
11	6.3	4.9	5.8	5.3
中学校				
12歳時	4.4	5.5	2.7	4.1
13	5.6	6.4	2.7	3.4
14	4.4	4.7	1.6	2.4
高等学校				
15歳時	1.8	2.0	1.2	1.1
16	2.4	2.7	0.0	-0.4

注)年間発育量とは、例えば、平成13年度生まれの5歳時の年間発育量は、平成20年度調査6歳の者の体重から平成19年度調査5歳の者の体重を引いたものである。

図9 【体重】平成13年度生まれと昭和46年度生まれの者の年間発育量の比較(男子)

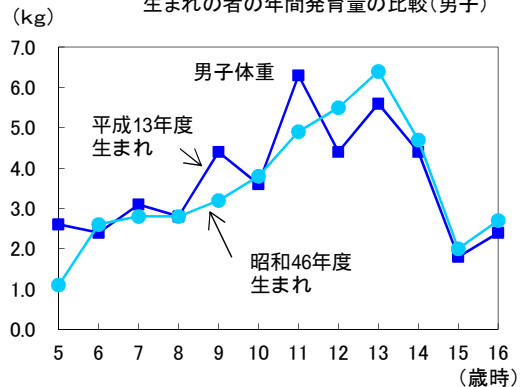
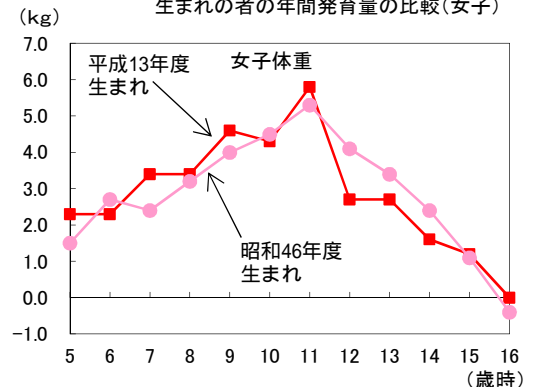


図10 【体重】平成13年度生まれと昭和46年度生まれの者の年間発育量の比較(女子)



健康状態

1 疾病・異常の被患率状況

疾病・異常の被患率を段階別にみると、表6のとおりである。

疾病・異常の被患率の中で高いものは、裸眼視力1.0未満で、高等学校70.6%、中学校57.6%、小学校37.8%となっている。

表6 疾病・異常の被患率

(単位：%)

区分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	
90%以上					
80%以上～90%未満					
70%以上～80%未満				裸眼視力1.0未満 70.6	
60%以上～70%未満					
50%以上～60%未満		むし歯(う歯) 51.8	裸眼視力1.0未満 57.6		
40%以上～50%未満				むし歯(う歯) 46.7	
30%以上～40%未満		裸眼視力1.0未満 37.8	むし歯(う歯) 30.9		
20%以上～30%未満					
10%以上～20%未満		鼻・副鼻腔疾患 12.6	鼻・副鼻腔疾患 12.1	鼻・副鼻腔疾患 10.2	
1%以上 ～ 10%未満	8%以上～10%未満		歯・口腔のその他の疾病・異常 8.2		
	6%以上～8%未満		耳疾患 7.0		
	4%以上 ～ 6%未満	歯列・咬合 4.3	その他の疾病・異常 5.5	耳疾患 4.9	歯垢の状態 5.8
		鼻・副鼻腔疾患 4.2	歯垢の状態 4.3	歯列・咬合 4.7	歯肉の状態 5.8
	2%以上 ～ 4%未満	歯・口腔のその他の疾病・異常 3.3 耳疾患 2.3	歯列・咬合 4.2	歯・口腔のその他の疾病・異常 4.2	心電図異常 5.0
			眼の疾病・異常 4.0	その他の疾病・異常 4.2	歯列・咬合 4.6
			心電図異常 3.8	歯垢の状態 3.9	その他の疾病・異常 3.9
			ぜん息 2.9	心電図異常 3.8	眼の疾病・異常 3.3
	1%以上 ～ 2%未満	ぜん息 1.8 その他の皮膚疾患 1.5 その他の疾病・異常 1.3 アトピー性皮膚炎 1.0	アトピー性皮膚炎 2.8	眼の疾病・異常 3.3	せき柱・胸郭・四肢の状態 3.1
			栄養状態 2.2	歯肉の状態 2.7	アトピー性皮膚炎 2.4
			せき柱・胸郭・四肢の状態 2.1	その他の疾病・異常 2.0 ぜん息 2.0	
0.1%以上 ～ 1%未満	0.5%以上	眼の疾病・異常 0.8	口腔咽喉頭疾患・異常 0.8	心臓の疾病・異常 0.9	
	1%未満	歯垢の状態 0.5	その他の皮膚疾患 0.8 難聴 0.7	口腔咽喉頭疾患・異常 0.5	
0.1%未満	0.1%以上 ～ 0.5%未満	せき柱・胸郭・四肢の状態 0.3	言語障害 0.4	その他の皮膚疾患 0.3	
	蛋白検出の者 0.2	蛋白検出の者 0.3	難聴 0.2	顎関節 0.3	
	腎臓疾患 0.2	顎関節 0.1	腎臓疾患 0.2	尿糖検出の者 0.3	
	言語障害 0.2	腎臓疾患 0.1	顎関節 0.1	その他の皮膚疾患 0.2	
	栄養状態 0.1		結核の精密検査対象者 0.1	腎臓疾患 0.2	
	心臓の疾病・異常 0.1		尿糖検出の者 0.1	言語障害 0.1	
			言語障害 0.1		
0.1%未満	顎関節 0.0	結核の精密検査対象者 0.0 尿糖検出の者 0.0			

注) 1 「口腔咽喉頭疾患・異常」とは、アデノイド、へんとう肥大、咽頭炎、喉頭炎、へんとう炎、音声言語異常等のある者をいう。

2 「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、だ石、癒合歯、要注意乳歯等のある者である。

3 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。

4 「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。

5 「その他の疾病・異常」とは、いずれの調査項目にも該当しない疾病・異常の者である。

2 主な疾病・異常の推移

疾病・異常のうち主なものの推移は、表7のとおりである。

表7 主な疾病・異常の推移

(単位：%)

	区 分	裸 眼 視 力 1 ・ 0 未 満 の 者	耳 疾 患	鼻 ・ 副 鼻 腔 疾 患	む し 歯 (う 歯)	心 電 図 異 常	蛋 白 検 出 の 者	ぜ ん 息
幼 稚 園	平成21年度	X	5.4	X	59.4	...	-	1.5
	27	X	1.8	1.8	46.5	...	-	0.9
	28	X	1.9	8.9	47.7	...	2.9	2.7
	29	X	1.5	2.0	48.4	...	-	3.2
	30	X	3.8	3.8	44.3	...	0.6	0.8
	令和元	X	2.3	4.2	X	...	0.2	1.8
小 学 校	平成21年度	30.9	6.3	12.8	68.6	4.8	0.3	1.3
	27	33.4	6.4	11.9	58.3	4.3	0.5	3.3
	28	33.6	6.3	10.9	56.2	3.5	0.5	3.7
	29	34.1	6.5	12.7	54.5	3.5	0.7	2.5
	30	38.1	6.0	13.7	53.1	3.3	0.3	4.3
	令和元	37.8	7.0	12.6	51.8	3.8	0.3	2.9
中 学 校	平成21年度	52.6	4.0	12.4	50.7	5.2	1.7	1.5
	27	52.0	4.8	12.3	36.0	6.3	2.8	2.0
	28	55.2	3.6	10.8	34.9	4.4	1.3	1.6
	29	53.6	3.5	10.6	35.1	2.7	2.3	1.7
	30	52.3	4.9	13.1	37.3	4.1	1.5	1.9
	令和元	57.6	4.9	12.1	30.9	3.8	1.2	1.8
高 等 学 校	平成21年度	60.7	1.8	18.2	72.9	5.5	3.0	1.9
	27	X	1.8	8.0	55.0	6.3	3.4	1.5
	28	X	2.3	11.1	53.7	5.0	2.6	1.5
	29	X	2.5	13.0	50.0	5.1	1.5	1.7
	30	63.0	2.3	9.7	48.3	3.7	0.8	1.8
	令和元	70.6	1.9	10.2	46.7	5.0	1.5	2.0

(1) むし歯(う歯)

むし歯(う歯)の者を、「処置完了者」と「未処置歯のある者」に区分すると、表8のとおりである。

むし歯(う歯)の被患率は、小学校51.8%(全国44.8%)、中学校30.9%(全国34.0%)、高等学校46.7%(全国43.7%)となっており、小学校、高等学校で全国平均を上回っている。

10年前(平成21年度)と比較すると、小学校では16.8ポイント、中学校では19.8ポイント、高等学校では26.2ポイント低くなっている。

幼稚園は数値が秘匿のため、全国及び10年前との比較はできない。

表8 むし歯(う歯)の処置完了状況等の推移

(単位：%)

区 分		年 度						R1	全 国 (R1)
		H21	27	28	29	30			
幼稚園	計	59.4	46.5	47.7	48.4	44.3	X	31.2	
	処置完了者	24.5	17.1	17.8	19.8	18.2	X	12.0	
	未処置歯のある者	34.9	29.4	29.9	28.6	26.1	X	19.2	
小学校	計	68.6	58.3	56.2	54.5	53.1	51.8	44.8	
	処置完了者	30.0	27.1	25.7	24.2	24.1	24.4	23.1	
	未処置歯のある者	38.6	31.2	30.5	30.3	29.0	27.4	21.7	
中学校	計	50.7	36.0	34.9	35.1	37.3	30.9	34.0	
	処置完了者	25.1	19.9	18.1	18.2	19.7	16.0	19.8	
	未処置歯のある者	25.6	16.1	16.8	16.9	17.7	14.9	14.2	
高等学校	計	72.9	55.0	53.7	50.0	48.3	46.7	43.7	
	処置完了者	36.9	27.9	27.1	27.0	26.8	23.8	26.4	
	未処置歯のある者	36.0	27.1	26.6	23.0	21.5	22.9	17.3	

(2) 裸眼視力1.0未満の者

裸眼視力1.0未満の者を、視力で区分すると表9のとおりである。

裸眼視力1.0未満の者の割合は、小学校37.8% (全国34.6%)、中学校57.6% (全国57.5%)、高等学校70.6% (全国67.6%)となっており、小学校、中学校、高等学校で全国平均を上回っている。

10年前(平成21年度)と比較すると、小学校では6.9ポイント、中学校では5.0ポイント、高等学校では9.9ポイント高くなっている。

幼稚園は数値が秘匿のため、全国及び10年前との比較はできない。

表9 裸眼視力1.0未満の者の推移

(単位 : %)

区 分		年 度						R1	全 国 (R1)
		H21	27	28	29	30			
幼 稚 園	計	X	X	X	X	X	X	26.1	
	1.0未満0.7以上	X	X	X	X	X	X	18.4	
	0.7未満0.3以上	X	X	X	X	X	X	7.0	
	0.3未満	X	X	X	X	X	X	0.6	
小 学 校	計	30.9	33.4	33.6	34.1	38.1	37.8	34.6	
	1.0未満0.7以上	11.8	12.6	12.0	12.0	13.2	13.3	12.0	
	0.7未満0.3以上	11.0	12.3	12.7	12.8	13.8	13.7	13.2	
	0.3未満	8.1	8.6	8.9	9.3	11.1	10.8	9.4	
中 学 校	計	52.6	52.0	55.2	53.6	52.3	57.6	57.5	
	1.0未満0.7以上	9.4	10.4	10.5	9.3	9.9	11.2	12.7	
	0.7未満0.3以上	16.3	15.1	16.4	15.8	17.8	14.3	17.7	
	0.3未満	26.9	26.5	28.4	28.4	24.6	32.2	27.1	
高 等 学 校	計	60.7	X	X	X	63.0	70.6	67.6	
	1.0未満0.7以上	9.3	X	X	X	7.9	9.5	11.3	
	0.7未満0.3以上	17.1	X	X	X	13.7	13.5	17.4	
	0.3未満	34.2	X	X	X	41.3	47.7	39.0	

(3) 心電図異常

小学校、中学校及び高等学校の各第1学年において、心電図検査の異常を調査した。
各学校段階の心電図異常の割合は、表10のとおりである。

表10 心電図異常の推移

(単位：%)

区 分	佐 賀 県					全 国				
	H27	28	29	30	R1	H27	28	29	30	R1
小 学 校 1 年	4.3	3.5	3.5	3.3	3.8	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4
中 学 校 1 年	6.3	4.4	2.7	4.1	3.8	3.2	3.3	3.4	3.3	3.3
高等学校 1 年	6.3	5.0	5.1	3.7	5.0	3.3	3.4	3.3	3.3	3.3